

# ほーほーどり

我孫子野鳥を守る会

No. 216

2010年

9～10月号

## 行 事 案 内

### 9月手賀沼探鳥会とカウント

期 日 9月12日(日) 雨天中止  
集 合 我孫子市役所 午前9時  
案 内 猛暑が去って秋ですね。カモ達との再会には未だ早いかもしれませんが、残っている夏鳥とこの時期に期待出来そうなサギ、アジサシ、モズや常連のカワセミなどを注意して観察しましょう。  
解 散 正午頃  
担 当 佐々木

スーパー林道途中にある峠で、タカ見の広場が整備されています。サシバやハチクマが松本平方面の山間や雲間から現れ、気流に乗って谷間や頭上を流れていくのを観察し、上昇気流に湧き上るタカ柱を楽しみます。また、アオバト、ハリオアマツバメ、ホシガラスなども観察できます。天候に恵まれれば、千数百羽のタカの渡りに出会えるでしょう。(昨年と同2日間での観察記録データは2,652羽でした。)

持 物 観察用具、防寒具、雨具、昼食(途中購入可)

宿 舎 奈川温泉 野麦荘  
Tel : 0263-79-2011

参加費 20,000円程度(交通費、宿泊費、保険料等)。(初日の昼食は各自負担)

定 員 20名  
申 込 下記までメールまたはFaxで申込をしてください。なお、旅行傷害保険申し込みの際年齢が必要になりますので年齢をお知らせください。  
染谷 Fax : 04-7182-3982  
桑森 Fax : 04-7182-3149

担 当 染谷、桑森

### 10月手賀沼探鳥会とカウント

期 日 10月10日(日) 雨天中止  
集 合 我孫子市役所 午前9時  
案 内 野外活動には最適な季節になりました。カモ達との再会が楽しみです。この時期ならではのエクリプスを、じっくり観察しましょう。  
解 散 正午頃  
担 当 小林(寿)、野口(紀)

### 白樺峠タカの渡り探鳥会

<再掲載>

期 日 9月18日(土)、19日(日)  
集 合 我孫子駅北口 午前6時10分  
交 通 小型バス  
案 内 今年のタカの渡り探鳥先は2年ぶりに信州白樺峠です。白樺峠は乗鞍

### 福島潟・朝日池 探鳥会

期 日 11月27日(土)、28日(日)  
交 通 上野駅 新潟駅の往復は上越新幹

線利用、このあと、福島潟(豊栄)、朝日池、佐潟、瓢湖などで探鳥します。新潟県内の交通移動手段として、鉄道+タクシー(場合によっては半日~一日だけレンタカー)を予定しています。

**案内** 日本最大のオオヒシクイの渡来地とされる新潟県福島潟(豊栄とよさか=新潟駅から約15km)で、ガン・カモ・ハクチョウなど湿地帯の水鳥や水辺・葦原の鳥達の大群を中心に楽しむと共に、朝日池(ハクガンほか期待)、佐潟、瓢湖などでの探鳥を予定しています。福島潟では昨年このシーズンに、オオヒシクイ、マガン、シジュウカラガン(小型在来亜種)、ハクガン、サカツラガンなどガン5種類、コハクチョウ、オオハクチョウ、それにオジロワシ・タゲリ(多数)などが観察されており、今年も期待しましょう。帰雁の大編隊飛行も見られるかも。

**持ち物** 観察用具、雨具防寒防風具、洗面具、着替え類、弁当(現地にて昼食予定、途中弁当購入も可)

**宿舎** 未定

**参加費** 30,000~35,000円(交通費、宿泊費、保険料等)

**申込** 田中まで(メールまたはFAXにて)  
田中 Fax: 04-7182-4860  
詳細案内・切符購入などについては、申し込みいただいた方に、別途後日、連絡いたします。

**担当** 間野、田中、松下、金子

---

## ジャパンバードフェスティバル

---

第10回ジャパンバードフェスティバル(JBF)が開催されます。

**期日** 10月23日(土)、24日(日)

**会場** 千葉県立親水広場(水の館)、我孫子市、鳥の博物館、アビスタ、その他

**案内** メイン会場は親水広場です。学生、NPO団体、光学器械関係は我孫子市鳥の博物館駐車場です。大会のメ

インブースは鳥博駐車場になります。参加内容については以下になります。他のイベントについては、広報あびこの10月1日号もしくは10月16日号をご覧ください。

皆様のご協力をお願いします。

我孫子野鳥を守る会 JBF 2010 参加内容  
ブース出展

「手賀沼で身近に見られる鳥たちのいろいろ」

野鳥クイズ

庭に鳥を呼ぶ=植物標本展示

噴水前定点バードウォッチング

船上バードウォッチング

JBFの設営は10月22日(金)の午後から行います。設営に参加できる方は、午後1時30分に大会のメインブースにお集まりください。

**担当** 幹事全員と会員各位

---

## 手賀沼クリーン作戦

---

**期日** 10月10日(日) 雨天中止  
**集合** 我孫子市役所 正面玄関前  
午後1時30分

**案内** 手賀沼周辺のゴミを集めます。清掃場所は柏市沼南側の探鳥ポイントを中心に行います。環境保全の一助です。多数の参加をお願い致します。終了は午後3時ごろを予定しています。(軍手、ゴミ袋は事務局で用意いたします。火ばさみのある方はお持ちください。)

**担当** 事務局

## 9月幹事会

<b>日時</b>	9月12日(日) 13:30~
<b>場所</b>	アビスタ2階 第2和室
<b>議題</b>	1. JBFの行事及び担当者の確認 2. 会報217号掲載記事について 3. 報告事項 4. その他(議題を提出する場合は事務局にご連絡ください。)

## 行 事 報 告

### 6月手賀沼探鳥会とカウント

調査日時 2010.6.13 9:00~12:00

晴れ時々曇り 風少し有 気温 24

<認めた鳥>カイツブリ、カワウ、ゴイサギ、ダイサギ、チュウサギ、アオサギ、コブハクチョウ、カルガモ、キジ、オオバン、キジバト、ホトトギス、ヒバリ、ツバメ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、オオヨシキリ、セッカ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス 計26種 番外 オカメインコ  
 <探鳥班> 肥後邦彦、桑森亮、村瀬和則、栗田励、西昭子、大久保陸夫、松田幸保、野口隆也、谷山晴男、常盤孝義、松本勝英、松本葉子、川村美恵子、田丸喜昭、田丸メリーリス、田中恒雄、宮下三禮、武藤康之、類地佑子、染谷良子、小玉文夫、間野吉幸、西嶋昭生、石渡成紀、古出洋子、鈴木静治、松下勝子、諏訪哲夫、西巻実、長田安世、小林孝夫、六角昭男、植田啓介、猪爪敏夫、中野久夫、山口キイ、天野睦子、佐藤弘美、小林博之、小林美智子、玉井修一郎、山中浩一  
 (担当) 北原建郎 参加者 43名

<カウント班> 木村稔、佐々木隆、染谷迪夫、田中功

調査日時 2010.6.13 9:00~11:40

晴れ 南東風やや有 気温 25

調査種	上沼	下沼	合計
カイツブリ	4	1	5
カワウ	37	44	81
ダイサギ	2	0	2
チュウサギ	0	2	2
アオサギ	1	8	9
コブハクチョウ	17	0	17
カルガモ	1	10	11
オオバン	4	1	5
合計	66	66	132

### 7月手賀沼探鳥会とカウント

調査日時 2010.7.11 9:00~12:00

曇り時々晴れ、無風、気温 29

<認めた鳥>カイツブリ、カワウ、ヨシゴイ、アマサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、アオサギ、コブハクチョウ、カルガモ、トビ、サシバ、ハヤブサ、オオバン、キジバト、カワセミ、ヒバリ、ツバメ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ウグイス、オオヨシキリ、セッカ、シジュウカラ、ホオジロ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス 計31種 番外 カワラバト  
 <探鳥班> 大久保陸夫、栗田励、西昭子、澤田冴子、諏訪哲夫、間野吉幸、田中悟、金子幸子、川越久枝、谷山晴男、佐々木隆、古出洋子、松本葉子、松本勝英、川村美智子、川村美恵子、小川克子、野口隆也、植田啓介、中野久夫、松田幸保、小玉文夫、北原建郎、猪爪敏夫、西城猛、宮下三禮、常盤孝義、西嶋昭生、山中浩一、高橋長久、小林秀美、小坂忠久、佐藤弘美、榎本右、鈴木静治、石渡成紀、小林博之、小林美智子、小林孝夫、野口紀子 (担当) 桑森亮 参加者 41名

<カウント班> 木村稔、田中功、染谷迪夫

調査日時 2010.7.11 9:00~11:40

晴れ 東風微風 気温 28

調査種	上沼	下沼	合計
カイツブリ	2	2	4
カワウ	22	19	41
ダイサギ	3	1	4
チュウサギ	1	0	1
コサギ	1	0	1
アオサギ	1	1	2
コブハクチョウ	18	20	38
カルガモ	7	1	8
オオバン	0	1	1
合計	55	45	100

---

## 笹川・印旛沼 探鳥会

6月27日

---

サンカノゴイが首を伸ばして・・・

青木 典子

典型的な梅雨時空模様ながら、なんとか持ちそうと8時に北口出発。予定より少し早めに本埜村下井の印旛沼に到着。オオヨシキリが賑やかに出迎えてくれました。今日はここでヨシゴイ、サンカノゴイが見られる筈とか、探鳥会新参加者としては、ニシキゴイならわかるけどなあと困惑しながら双眼鏡越しに芦原や田圃に目を凝らしました。まずヨシゴイ確認。ほらサンカノゴイが首を伸ばしているという声に慌てて双眼鏡を向けるものの、やっと方向確認した頃には稲葉が揺れるばかりということを繰り返していましたが、これもしっかりと見ることが出来ました。伸ばした首だけでしたが・・・

その後は笹川の対岸辺りにレンカクが飛来しているとのことで、神栖町方面に寄り道。それとおぼしき現地の湿地の水たまりほどの小池には既にかんりのギャラリーが・・・。そしていました、レンカクが。そうか、これがレンカクさんかいなと観察していると先輩から、この鳥は非常にまれにしか見ることが出来ない、今日見られたのは大変ラッキーなことであると教えて頂き、幸せーな気分最終目的地、笹川に向かいました。

笹川ではオオセッカ、コジュリン等観察できました。自分でコヨシキリを確認することは出来ませんでした。が次回の楽しみです。最後に少し雨に降られましたが愉快的探鳥会でした。

【幹事報告】<認めた鳥>カワウ、サンカノゴイ、ヨシゴイ、ゴイサギ、アマサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、アオサギ、カルガモ、トビ、チョウゲンボウ、キジ、レンカク、クロハラアジサシ、コアジサシ、キジバト、ヒバリ、ツバメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、ウグイス、オオセッカ、コヨシキリ、オオヨシキリ、セッカ、コジュリン、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス  
計33種 番外 カワラバト

<参加者>桑森亮、中野久夫、間野吉幸、大久保陸夫、青木典子、松本勝英、松本葉子、猪爪敏夫、類地佑子、木村稔、古賀嗣郎、吉田隆行、石渡成紀、井上正、松下勝子、畠中暁美、田中恒雄、金子幸子、川越久枝、諏訪哲夫、(担当幹事)小玉文夫、北原建郎  
参加者22名

---

## 映 写 会

7月24日

---

恒例の映写会を水の館3階の研修室で開催した。15名の方から560点の写真と1点のビデオの発表があった。会場には31名の方々が来場して熱心に鑑賞した。今年も海外の鳥達が沢山紹介された。国内も我孫子周辺ではあまり見ることができない野鳥達が沢山紹介された。上映される作品は年々充実してきている。来年はさらに多くの会員の参加を期待したい。

<発表者と発表点数>

桑森亮	オオヒシクイ、カナダヅル、ヤツガシラ等40点
池田日出男	オオワシ、アカショウビン、マミジロ等40点
井上正	レンカク、ホシガラス、コミミズク等40点
野口隆也	チュウシャクシギ、シマフクロウ、クロウタドリ等40点
古賀嗣郎	カワセミの求愛給餌等40点
吉田隆行	ハイイロチュウヒ、ビロードキンクロ、ヤツガシラ等40点
柴本三弘	コマドリ、ヤマセミ、アカショウビン等40点
西巻実	アラナミキンクロ、コマツグミ、ハクトウワシ等40点
浅野利幸	ソリハシセイタカシギ、ヒメコウテンシ、ムギマキ等40点
村上稔	ズグロコウライウグイス、インドブッポウソウ、ビロードゴジュウカラ等40点
大久保陸夫	レンカク、サンコウチョウ、サンカノゴイ等40点

中野久夫 シマアジ、マミジロ、チシマウ  
ガラス等 40 点  
田中功 ライチョウ、イワヒバリ、ホシ  
ガラス等 40 点  
諏訪哲夫 ユキホオジロ、キズタアメリカ  
ムシクイ、ルリカケス等 40 点  
松田幸保 ビデオ(タシギ、オオジシギ等  
のジシギの生態)

<参加者> 浅野利幸、野口隆也、西巻実、中  
野久夫、村上稔、池田日出男、井上正、首藤  
佑吉、間野吉幸、桑森亮、大久保陸夫、古出  
洋子、佐藤弘美、野口紀子、北原建郎、小玉  
文夫、古賀嗣朗、染谷迪夫、渡辺戌、戸塚道、  
松本勝英、松本葉子、田中功、吉田隆行、宮  
下三禮、佐々木隆、柴本三弘、松田幸保、天  
野正臣、天野睦子  
(担当) 諏訪哲夫 参加者 31 名

---

## 納 涼 会

7月24日

---

映写会で力作揃いの作品を鑑賞した後、場  
所を変えての恒例の納涼会です。  
今年梅雨明け後、連日猛暑が続き、この日  
も太陽が照りつけるなか、喉の渇いた会員諸  
氏が遅刻することなく全員定刻に集合しま  
した。間野会長の乾杯の音頭で始まり、あち  
らこちらで鳥談義に花を咲かせました。飲み  
放題、喋り放題の二時間はいつの間にか過ぎ、  
盛会のうちに無事お開きになりました。

<参加者> 野口隆也、和田朋之、松田幸保、  
鈴木静治、猪爪敏夫、中野久夫、桑森亮、松  
本勝英、佐々木隆、木村稔、間野吉幸、小玉  
文夫、田中功、栗田励、大久保陸夫、諏訪哲  
夫、首藤佑吉、田丸喜昭、井上正、村上稔、  
柴本三弘、池田日出男、渡邊戌  
(担当) 染谷迪夫、北原建郎 参加者 25 名

---

## ホタルの夕べ

(我孫子野鳥を守る会と鳥博友の会の共催  
行事)

日 時 平成 22 年 8 月 1 日(日) 曇  
気温 25 湿度(高)  
集 合 東我孫子駅前午後 7 時  
(観察午後 7 時 20 分~8 時 20 分)  
観察場所 我孫子市岡発戸・都部谷津ミュ  
ージウム(主にホタル・アカガエルの  
里付近)  
参加者 栗田励、苅田、狩野義隆・由美・  
ひかる・あすか、野村志津子、森智  
子、小澤公夫・亜津子・太智・直己、  
飯島達也・秀子、並木昌夫・珠美・  
あかり・きょうすけ、鈴木由美子・  
裕太・麻由、渡辺優子、中村麻紀・  
陸人、浅井久・董・鐘雨・時杏杰、  
染谷良子、坂本美紀・光翼、國安輝  
彦・志保・莉南・輝洋、山田哲生・  
とし子、北原建郎・節子、中根文世・  
きよと・実希、常磐孝義、上條良夫・  
淳子・敬太、池本加代子、三輪京子・  
準人・はるか、戸塚道、新岡淳司・  
未穂・鷹翔・桃音、古出洋子・夏妃、  
若狭信二・詩歩・実輝、島崎純造、  
(担当) 染谷迪夫、木村稔  
参加者 63 名

### 報 告

本日認められたヘイケボタルの数  
165 頭。

本日は夜まで蒸し暑く、ホタルの観  
賞にはもってこいの日であった。これ  
で 4 年続けて 3 桁のホタルが観察さ  
れたが、これは、我孫子市手賀沼課、  
我孫子市岡発戸・都部谷津ミュージ  
アムの会、あびこ谷津学校友の会の方々  
が、整備・保全を手がけているたまも  
のと感謝したい。田んぼの青々とした  
稲の上、木立の間、草むらのかげ、湿  
地、ヨシ原に幻想的な青い光りは、楽  
しいひと時を過ごさせてくれる。参加  
者の皆さんは「わーきれい！」などと  
心から楽しんでくれたようである。

## 第7回手賀沼学会大会

第7回手賀沼学会大会が、7月3日(土) 13時から中央学院大学で開催されました。我孫子野鳥を守る会は「手賀沼周辺で見られる身近な野鳥の食べ物」と題したパネル展示で参加致しました。

「手賀沼周辺の身近な野鳥 82種とその食べ物」, 「山野の鳥・水辺の鳥の採餌写真」などを大型パネルで紹介しました。

大会開催前と休憩時間を利用して大勢の方に内容説明し、かなり専門的な質問のやりとりも行われ、大変好評の裡に終了致しました。

担当：間野吉幸、宮下三禮、野口隆也

### 鳥だより

- |   |  |
|---|--|
| 05.17 [手賀沼上空] サバ(1) 上沼1<br>染谷迪夫・木村稔・北原建郎              | 05.31 [北新田] カッコ(1) 河川敷で鳴き声<br>中野久夫                             |
| 05.21 [東中新宿] 朴ギス(1) 23:08、西方向から東方向に鳴きながら通過<br>飯泉久美子   | 06.01 [千間橋] ヨコイ(3) 水面上を飛び<br>葦原に入る 鈴木静治                        |
| 05.21 [江蔵地] フウギ(2) 田植え後の水田で採餌<br>鈴木静治                 | 06.02 [つくし野] 朴ギス(1) 朝5時半ごろ鳴きながら飛翔<br>中野久夫                      |
| 05.21 [中峠] カッコ(1) 利根川河原より鳴き声が聞こえる<br>鈴木静治             | 06.03 [中峠] コシキ(3) 枯れた葦、灌木に留まり囀る<br>鈴木静治                        |
| 05.22 [泉] サバ(2) 手賀丘公園裏の谷地で鳴きながら高木に止まり、森に入る 桑森亮        | 06.07 [布佐平和台] コトリ(1) 調整池の水辺で鳴く<br>鈴木静治                         |
| 05.23 [江蔵地] フウギ(1) 上空高く通過<br>鈴木静治                     | 06.10 [千間橋] ハブサ(1) 畦で獲物をカス2羽の威嚇も無視して食べ続ける<br>鈴木静治              |
| 05.25 [新木] コトリ(2) 宅地造成地を飛び回る<br>鈴木静治                  | 06.10 [中沼田] ヒ(1) 上空でカスに追われる<br>鈴木静治                            |
| 05.27 [布佐平和台] 朴ギス(2) 鳴き声が聞こえる<br>鈴木静治                 | 06.10 [高野山新田] 朴ギス(1) 囀りが聞こえる 猪爪敏夫・川田光男・谷山晴男<br>鈴木静治            |
| 05.27 [布施新田、浅間橋] ハブサ(1) 上空で小鳥を捕らえ高圧鉄塔上に運び、食べる<br>鈴木静治 | 06.11 [柏西口ダブルデッキ1階] イヅメ(2) 10:20、ダブルデッキに営巣し、抱卵中<br>飯泉仁         |
| 05.27 [北新田] ヒ(2) 帆翔<br>中野久夫                           | 06.13 [手賀沼辺] フウギ(2) 下沼2<br>染谷迪夫・木村稔・佐々木隆・田中功                   |
| 05.28 [中峠] フウギ(2) 葦原上空を餌取りで飛ぶ<br>鈴木静治                 | 06.20 [大井新田先手賀沼] 材カ(1) 13:42、南方向から出現し、葦原上低空を旋回<br>飯泉仁          |
| 05.28 [中峠] ヒ(1) 葦原上空を飛ぶ<br>鈴木静治                       | 06.27 [布瀬新田手賀川] ヨコイ(1) 13:46、29、曇り、葦原を東から出現し、西方向に移動<br>飯泉仁・久美子 |
| 05.30 [片山] ヒ(1) 15:19、林の中で囀っていた<br>飯泉仁・久美子            | 06.27 [柳戸] サバ(1) 14:45、県道のバス停近くの電線に止まっていた<br>飯泉仁・久美子           |
| 05.30 [片山] 材カ(1) 15:19、林の中で囀っていた<br>飯泉仁・久美子           | 06.28 [北新田] イヅメ(1) 4号排水路岸で<br>中野久夫                             |
| 05.31 [東中新宿] 朴ギス(1) 6:30、自宅より南南東方向を鳴きながら通過<br>飯泉仁・久美子 |  |
| 05.31 [高野山] ジュウ(1) 鳴き声(囀り)<br>平岡考・馬場孝雄ほか              |  |

- 07.04 [東中新宿] コトドリ(7) 14:55、成鳥  
5、幼鳥2が荒地を歩いて移動、うち成鳥  
2羽は抱卵中 飯泉仁
- 07.08 [岡発戸新田] ヒ(1) 斜面林上空  
を飛ぶ 猪爪敏夫・川田光男・  
谷山晴男・鈴木静治・間野吉幸
- 07.11 [中原] ツミ(1) 曇り、鳴きながら上  
空を旋回 飯泉仁
- 07.11 [手賀沼辺] ハヤブサ(1) 上沼1  
染谷迪夫・木村稔・田中功
- 07.13 [片山新田先手賀沼] コトドリ(1)  
10:01、鳴きながら移動 飯泉仁
- 07.14 [北新田] ヲウゲンボウ(1) 電柱から  
飛去 中野久夫
- 07.15 [北新田] チウサギ(11) 水田で採餌  
中野久夫
- 07.15 [北新田] ヲウサギ(1) 4号排水路で  
中野久夫
- 07.18 [ゆうゆう公園自然観察ゾーン]  
ヒ(1) 飛翔 諏訪哲夫
- 07.18 [ゆうゆう公園自然観察ゾーン]  
コシヤリ(2) 囀り 諏訪哲夫

今回寄せられた鳥の全種名

<山野の鳥>

イワツバメ、ウグイス、エナガ、オオタカ、  
オオヨシキリ、オオルリ、オナガ、カッコウ、  
カワセミ、カワラヒワ、キジ、キジバト、キ  
ビタキ、コゲラ、コヨシキリ、サシバ、シジ  
ュウカラ、ジュウイチ、スズメ、セッカ、チ  
ョウゲンボウ、ツバメ、ツミ、トビ、ハクセ

キレイ、ハシボソガラス、ハヤブサ、ヒバリ、  
ヒヨドリ、ホオジロ、ホトトギス、ムクドリ、  
メジロ、モズ 計 34 種

<水辺の鳥>

アオアシシギ、アオサギ、アマサギ、イソシ  
ギ、オオバン、カイツブリ、カルガモ、カワ  
ウ、キアシシギ、キョウジョシギ、クサシギ、  
コアジサシ、ゴイサギ、コサギ、コチドリ、  
コブハクチョウ、ダイサギ、チュウサギ、バ  
ン、ムナグロ、ヨシゴイ 計 21 種

合計 55 種

<番外種>

カワラバト、コジュケイ

今回の投稿者の総投稿件数

猪爪敏夫・川田光男・谷山晴男・

鈴木静治・間野吉幸

35

飯泉久美子

3

飯泉仁

377

飯泉仁・久美子

68

大久保陸夫・鈴木静治

1

桑森亮

4

鈴木静治

61

諏訪哲夫

12

染谷迪夫・木村稔・北原建郎

8

染谷迪夫・木村稔・佐々木隆・

田中功

8

染谷迪夫・木村稔・田中功

11

中野久夫

39

平岡考・馬場孝雄他

1

総計

628

( 諏訪哲夫 )

## [ 北海道道東鳥見旅 ]

松本勝英

6月15日から、4泊5日の日程で10余年振りに道東を楽しんだ。

北海道は、約30年前、サラリーマン現役時代、数年に亘って担当した辛く懐かしい思い出の地で、プライベートでの愚妻との旧婚旅行以来である。そのときは鳥見が目的でなく、傷心を癒すことが目的でしたが今回は丸々、探鳥そして探鳥に集中した旅行でした。

初日(15日)羽田発 ANA741 便は定刻 10:30 に釧路空港に到着。やはり霧の出迎えた。それも半端でなく、冷たく濃い霧でした。雨混じりだったので、予定の愛冠岬(厚岸湾対岸)をあきらめ代わりに湿根内ビジターセンターに寄ってみた。ウッドデッキでの昼食後散策開始、木道からは、遠くツツドリの声がかすかに聞えたが、鳥影が期待薄く、霧多布湿原に一気に向かう。急いだ甲斐があり、タンチョウはじめシマセンニュウ

の初見参に興奮、オオジシギの多さとあの「ザザザーッ」の羽音に思わず頭を低くするほどに圧倒された日になった。

湿原で タンチョウ独り 片思い  
オオジシギ 霧を払いて 急降下

2日目、天候は回復せず、名前のとおり“霧多布”の上、風もやや強く荒れていたが、夜明けの朝4時、車で10分程の自然遊歩道へ熊に注意しながらエゾライチョウ、クマゲラをねらって朝探にチャレンジした。しかし、右手の雑木林でのアカゲラの声、一瞬に飛び去ったオジロワシ、左手の山すそまで開けた草原でのシマセンニュウの丁重な挨拶以外は、朝霧が抜けても一向に姿を見せてくれないマキノセンニュウにちょっと嫉妬しながらの“トホホ”の朝探でした。朝食後、霧多布岬に行きましたがやはり霧が深く早々に切り上げ、落石岬に向かう。途中、草原のタンチョウを間近に見ることができたが、雨も降り始めたため進路を落石港に変え、営巣材を奪い合うセグロカモメの奇妙な仕草や平然と紛れ込んでいるウミネコに少し癒された。次の宿泊地(春国岱)の宿主から、納沙布岬で珍鳥が営巣しているとの朗報あり直行した。薄い霧の向う、眼前50mぐらいの岬の岩肌中腹にいたのは、なんとチシマウガラス！それも、たっぷりの干草の上で抱卵しているメス、やや下にはオスが見守っているひと番でした。

数歩前 マキノセンニュウ こえ確か  
紅ふたつ チシマウガラス なに語る

3日目の朝は、風連湖の畔。雨も止んでいた。4時、湿根沼横林道がクマゲラのポイントと聞き、早速向かう。針広葉樹の自然林が色濃く残る砂利道を、車窓を開け視覚も聴覚もフル稼働しながら最徐行で慎重に進むと出迎えてくれたのは、エゾシカとウソたち(入れ替わり立ち代り)だった。沼沿いのポイントでしばらく待ってみたが今朝も嫌われてしまったらしい。遠く「キョーッ」の一声がむなしく耳に残った。オジロワシが対岸の樹上から慰めてくれた。

クマゲラは またも幻 こえ遠く  
すき透る 見返り美人 ウソのこえ

風連湖に連なる根室十景のひとつ春国岱は、野鳥、水鳥の宝庫だ。本州では、既に不在のマガモ、スズガモ、ヒドリガモ、ミヤコドリらの水鳥と、潮風で朽ちた樹林の中の木道からノビタキの得意気のさえずりが360度ここかしこに見える。根室湾の海上をオジロワシがゆっくりと飛翔してくれた。オオワシは北帰行してしまってもういない。絵はがきのような風景を惜しみながら、国道243号を北上し、次の探鳥地の野付半島に向かう。ラムサール条約登録の湿地で、期待をしたが生憎、風が強く鳥たちは藪の中に潜んでいて、声も姿もなく自生の黒百合と海鮮ラーメンで気を紛らした。

でも、神は我を見捨てなかった。目の先数キロの国後島との波間にはクロガモの群れが浮いていた。堤防脇の朽ちた流木にはオジロワシが至近距離で、途中の湿地にはタンチョウファミリー(?)3羽が悠然と採餌しているのを見、気を良くしてポー川史跡公園にも立ち寄る。入り口近くの枯れた大樹の穴から顔をだしたのはなんとヒガラでした。ペアがしきりに出入りしているので、育雛中なのだろう。木道からトビが数羽見えたが、足下の草花(名前をメモ忘れ)を楽しんで早々に引き上げた。

クロガモや 国後沖の ひと休み  
親ヒガラ せっせせっせと 巣穴かな

今日の予定は最長行程165kmだ。標津町は町の雰囲気があり、目はカモメやツバメを追いながら、いよいよ知床半島の海岸線を北上し、羅臼に入った。宿舎には直行せず、一旦、山道を行き天然温泉の“熊の湯”(無料)へ。「源泉90度」は嘘ではなく、湯場の直径5mくらい目一杯離れて入浴したが、熱いのなんの!、1~2分で全身真っ赤になっ



た。さすが“熊の湯”だてでなかった。

いよいよ今回の旅のクライマックス「シマフクロウのハンティング」の“鷺の宿”に着いた。宿は一見、普通の民家風だが、その筋では有名らしく他の客はすでに到着していた。宿の前の意外にひらけた小川（川幅4～5m）がそのステージらしい。私は川岸辺に停めたレンタカー内をポジションとした。夕食後乗り込みカメラの点検をするうち、7時過ぎやや暗くなると早くもオスがまるで湧いて出たように忽然とステージを見下ろす枝に現れた。まもなく川石に飛び降り周囲を警戒しながらも、水面を窺う、なにかを見つけた、次の瞬間足から飛び込む、川石に戻る、左足指先にはなにか光るものが握られていた。無造作に口にくわえた。・・・夢中でシャッターをきるが、一発で小魚をゲットするとくわえたまま、私を尻目に飛び去ってしまった。その間2～3分の一幕でした。近くの山で育雛中とのことで、続いてメスがやって来たのは30分ぐらいしてからでした。オス同様、周囲を警戒し、ステージの周りを行き来しながら何回か失敗しているうち、一度、カメラに気づいたのか私を睨んだ目が金色に輝いていた。催眠術にかかったかのように、疲れと酔いと満足感で不覚にもまもなく寝込んでしまった。

シマフクロウ 水音ひとつ ワシづかみ  
シマフクロウ ひとり舞台に 息をのむ

4日目、羅臼をあとに知床半島を知床峠越しに横断、知床自然センターを目指した。知床半島横断道は、山道に入るとすぐ霧が立ち込み視界不良でした。知床峠の駐車場でトイレ休憩の際、流れる霧の間合いをぬって近くの山間を探鳥する。道路下の低木になにか出ているが同定できぬまま、帰り際目の前の霧が少し晴れた。真正面の高さの梢になんとギンザンマシコが胸を突き出し盛んに囀っているではないか！なんとという偶然、なんとという幸運、このサプライズに有頂天になった。

霧流れて ギンザンマシコ こえ涼し（ありがとう・・・思わず出た言葉）  
知床は 君もいるのか カワラヒワ

知床自然センターでは、丁度ヒグマが出没していて、2時間ぐらいは散策できないとレーダーと麻醉銃を持ったレンジャーから止められたので、知床五湖に直行した。一湖と二湖を歩いてみたが観光客が大勢来ていて、ハルゼミの大合唱もあり鳥の声は消されてしまった。駐車場脇の樹梢に来たモズと今越してきた羅臼岳の残雪が遠望できたのが収穫でした。

斜里町をやりすごし、小清水原生花園に立ち寄ってみた。10年前には見渡す限り咲き誇っていたエゾキスゲがまばらに群生しているだけでしたが、たくさんのオオジュリン、カワラヒワには会うことができた。次に目指したのは、網走市街を通過し、ワッカ原生花園。ここはサロマ湖とオホーツク海に挟まれた原野で、野鳥たちのパラダイスだった。出るわ出るわで、ノビタキ、ベニマシコ、コヨシキリが我先にと歌合戦している。あのマキノセンニューさえ参戦だ。満喫していると、ほどなく砂防柵上にとまっているノゴマを遂に探せたが、カメラを構えるとちょっと先の木柵に移動することの繰り返しで、足元と彼（多分）とのやぶ睨みには閉口した。頭上からは、オオジシギが存在を主張しては、何度も私をおどかしてくれた。

ノビタキら 原野せましと のど自慢  
数歩づつ ノゴマ追い追い 草を踏む

「草原のジャズシンガー」やルビー色の喉元鮮やかな野鳥たちと別れを惜しみつつ最後の宿泊先 サロマ湖畔のホテルへ。

最終日の朝探は、ホテルの庭先からサロマ湖畔遊歩道だ。ちょっとした林間の山道は国道沿いではあったが静寂の中、オオルリ、カッコウ、アカゲラの声が心地よかった。

こもれびにオオルリの白い胸が映え森の王子さまのように感じられ、今日一日の良き日を物語っていた。さらに北、紋別市に向かいシブノツナイ湖（沼）は、手賀沼の約半分くらいの面積で、一周するとノビタキ、キビタキ、ホオジロ、オオジュリンが競い、続いてひと際高い葦の穂上にはベニマシコが出現し、海上ではトビとオジロワシとハシブトガラスの3すくみのバトルまで遭遇できた。なにごとともなかったかのように悠然と離れていったオジロワシが印象深かった。

オジロワシ 終の棲家か オホーツク  
ベニマシコ 一段高く えらび行く

次に訪ねたのは、キムアネップ岬（網走国定公園）だ。浅瀬とはいえ一応オホーツク海でアオサギ9羽が一直線に整列して儀礼兵のごとく歓迎してくれた。探鳥地として知られているのか地元の方と思われる鳥キチ（失礼）の車も数台来ていた。周回路が終わる頃、低木の葉陰の枝にはノビタキがオス・メス交互に来ては警告している。近くで営巣している様子だ。

オジロワシが低空から別れを告げている。時刻がせまってしまった。アカゲラのドラミングに送られながら、波静かなオホーツク海を後にした。

女満別空港 15:35 発 JAL1188 便で帰路についた。毎日が、夜明けとともに朝探、走行延べ 665 km、エゾライチョウには合えなかったけれど合計 73 種の探鳥三昧で無我夢中の 5 日間でした。 おわり

**新会員紹介** 山中浩一（我孫子市在住） 金子雅幸（柏市在住）

## PACIFIC NORTHWEST への鳥追いの旅（2）

### < 前号からの続き >

田丸 喜昭

4月26日(月) この日の第一ポイントは、ポートタウンセント湾の東側対岸の小さい半島の北端に位置するフォート フラグラール岬 SP。西側の海岸に出ると、海面には鳥がほとんど見えない。波打ち際で、セグロカモメ HERRING GULL がヒトデをくわえて声をあげ、若鳥が近寄ってきた。餌を与えようと思ったら、餌を見せびらかして与えようとせずに、むしろ威嚇している。餌捕りの訓練だったが、この一連の写真を撮った。続いて現れたのが一羽のハシビロアビ COMMON LOON。浮かんだり、潜ったり、羽ばたく写真を何枚か撮ったが、露出が悪く、あまり良い写真ではない。続いて東側海岸に移動すると、駐車場近くの木のテッペンにハクトウワシ BALDEAGLE がとまっていた。

101号線に戻り、次の予定地のダンジネス NWR(DUNGENESS)に向かう。ここは、陸上の保護区からフォアン デ フカ海峡 JUAN DE FUCA に向かって、満潮時には幅 15メートルの砂浜が9キロほど湾曲して細長く突き出し、それに囲まれた干潟（ダンジネス湾）には、15,000羽ほどのコクガン BRANT が越冬し、渡りの時期には31種 15,000羽ほどの水鳥が観察できると案内書に書かれている。入口から雨林地帯を緩やかに下り、急な長い坂を下りて海岸線に出た。この日は、砂地の道の両側の海面に、鳥の姿が少ない。越冬したり、

通過する鳥たちは、すでに北へ旅立ってしまったのだろう。海峡側の水面に浮かぶウミアイサ RED-BREASTED MERGANSER のつがい、ホオジロガモ、夏羽となり金色の飾り毛をたてたミミカイツブリ HORNED GREBE、アラナミキンクロ SURF SCOTER、ML がカムムリカイツブリと間違ったクビナガカイツブリ WESTERN GREBE、ヒメウ PELAGIC CORMORANT などを見た。ハクトウワシが近くの電柱にとまっていた。空に 10 羽近くのハクトウワシが旋回していて、そのうちの一羽は、下から見ると、白の斑模様で、別種のワシかと思ったが、2 年目の若ドリと図鑑から知った。これまでアラスカやアイオワで何回かハクトウワシを見ているが、今度の旅ほど沢山のこの鳥を見たことはないし、飛翔する姿を観察したこともない。飛んでいるときは、頭部と尾羽全体が真っ白で、他のワシタカと簡単に識別できる。ここを訪れている人の数はまばらだったが、ほとんどの人たちは軽装で岬の先端まで歩いているようだったが、私は、レフ 1000mm をつけたカメラと三脚が重く、やや傾いた砂浜が歩きにくく、鳥影も薄いので、スタート点から 1 キロほど歩き、戻ることにした。

この日は、ポート エンジェルス の宿。チェックインにいくと、予約がないといわれた。日本で予約時に印刷したものを見せると、どうやら、私が十分な情報を入力せず、ホテルのコンピューターに無視されたらしいが、部屋は確保できた。この日、手持ちのライターがガス切れとなり、NO SMOKING が丸一日以上続く羽目となる。ホテルは海岸に面しているが、雨模様のため、夕刻、バーの窓から海岸を飛ぶカモメなどを眺めていた。近くに、ポート エンジェルス 港があり、20 数キロ対岸のカナダのヴィクトリアからのフェリーが到着した。

4 月 27 日(火) 雨雲が低くたれこめているので、予定にあった国立公園の山の中に入るコースを取りやめ、先に進む。近くのスーパーが営業しているガソリンスタンドで給油。初めて経験したのは、給油機が国際クレジットカードを認識せずに、店内の読取機は認識できたことだった。計算してみると、ガソリン単価は、リッターあたり ¥76。この車は、出発点から、リッターあたり 9.4 キロ走ってきたことになる。私のクラウンだと、多分 13 - 14 キロ走るだろうから、この車のエンジンが大きく車体が重いからだろうと想定。ガソリン価格が安いので、文句はいえない。

大きな町があるのはここまでで、この先の交通量はぐんと減る。101 号線を西に向かうと、道路は海岸線を離れて、国立公園の高い山々の裾を巡るように、段々高度を上げながらカーブが多くなる。雨が強くなり、切り出した材木を二両連結のトレーラーに満載したトラックが対向車線から頻繁にやってきて、交差するときに、大きな水しぶきを私の車にふり掛けて通り過ぎていく。深い山に囲まれた日光の中禅寺湖を思わせるクリセント湖に着き、南岸にあるレンジャー ステーションに立ち寄るが、しまっていた。川沿いの原生雨林の中のトレールを美形のメリーメア滝に向け傘をさして歩く。トレール往復の間に、ミソサザイモドキ WRENTIT、クサチヒメドリ SAVANNAH SPARROW、ウタスズメ、ミヤマシトド WHITE-CROWNED SPARROW、キガシラシトド、ユキヒメドリ DARK-EYED JUNCO、スミレミドリツバメ VIOLET-GREE SWARROW、メキシコカワガラス AMERICAN DIPPER などを見た。湖畔から眺めると、静かな湖面にヒメハジロが一羽静かに浮かんでいた。レンジャー ステーションに戻る雨林の中で、クリイトコガラ CHESTNUT-BACKED CHIKADEE が自分たちの巣の周辺を飛び回るのや、ムナオビツグミ VARIED THRUSH などを見た。

101 号線をさらに西へ進み、小さなビーバーの町の道路わきにスーパーがあったので、トイレを使い、サンドウィッチとコーヒーを求め、またライターも買いようやくタバコにありつくことができた。昼食は車内でとる。このスタイルは、この先、昼時、小さな町を通過するときの慣例のスタイルになる。(もっとも、道路沿いに何もなく、昼飯抜きのこともあった)。ここから、101 号線は南に向かい、ホー川を越えて、その川に沿って下り、太平洋岸に至る。半島北西端から海岸に沿い、南へ 220 キロが国立公園と NWR となっていて、断崖絶壁がつ

づき、それに沿って 870 もの小さな離島、岩場、礁が点在し、多くの鳥達に利用されている。ただし、海岸まで道路が延びている地点や、そのトレールからしか、鳥を見ることはできず、離島への立入もできない。

海岸線に出会ったポイントにあるルビービーチに立ち寄る。駐車場から急な坂を下りて小さな川が流れ込む海辺に出たが、砂浜が少なく岩場と流木の多い場所で、鳥の姿は、ここまで上下する林の中の小鳥のほうが多いようだった。ここから、101 号線は、17 キロほど海岸線に沿った絶壁の上の原生雨林の中を通る。一定距離ごとに「つなみ退避路」の表示が立てられていた。次の第 4 ビーチでは、海辺まで下りずに、原生雨林の中を歩いた。ここの古木の樹木の多くに、幹の途中に大きなコブが膨らんでいて、原因の学術的説明の看板立てられていたが、専門外のこと、読んだが詳細は忘れた。再び上り坂となり内陸方向に進む。この日の宿は、101 号線から左折し、世界で最大といわれるエゾマツや、カナダツガ、モミ、ヒマラヤスギの原生雨林の中の、何百万年前に氷河により削られたといわれる東西 8 キロ南北 6 キロのクイノールト湖湖畔に、1926 年に建てられ、部屋数 92 室の趣のある大きなレーク クイノールト ロッジだ。平日というのに、年配の滞在客でかなり混雑していた。宿近くの湖面にハシグロアビが浮かんでいた。この日の走行距離 200 キロ。

4月28日(水) 朝食前に部屋から外へ出ると、駐車場周辺の藪の中に、ウタズメ、ミヤマシトド、キガシラシトド、ユキヒメドリたちがさえざりながら飛び回っている。どうやら、私の目もこれ等の鳥たちに慣れ親しめるようになってきたが、耳はまださえざりには慣れてきていない。スミレドリツバメが電線に。芝生の庭をまわって朝食に食堂に向かうと、食堂の窓に向かってさかんにぶつかっている鳥がいる。ユキヒメドリだ。窓のガラスに映る自分の姿に向かい攻撃をしかけている。日本のセキレイやジョウビタキなどが同じような行動をとる。これは食事中も食後も、飽きることなく続けられた。アカフトオハチドリ RUFIOUS HAMMINGBIRD が何羽か砂糖水のフィーダーに来ていた。雨が何時落ち始めてもおかしくないの、ホテル周辺や、湖周辺一帯の何種類ものトレールには足を伸ばさず、宿から湖畔沿いの短いトレールを歩き、朝食前に会った鳥達を間近に見ながら写真を撮る。対岸は遠く、確実に識別できないが、ナキハクチョウ TGRUMPETER SWAN やカモ類が群れていた。足元の湿地に、ニッコウキスゲによく似ているが、黄色い花を咲かせる植物が生えていた。

50 キロほど南下したところにグレイズ ハーバー(湾)があり、そこにグレイズ ハーバー NWR がある。日本での下調べでは、この湾は、太平洋岸で、六つの最も重要な干潟の中で三番目の大きさがあり、北米でも四つの重要な渡り鳥が羽を休める干潟のひとつで、年間百万羽以上 24 種の渡り鳥が記録されているとあったので、私達の期待は大きかった。道路標識どおりに進み、ローカル空港に入ったが、NWR の表示はないので、やや引き返し、大きな池の反対側にまわり車をとめて、池の中や周辺の草地の鳥を眺める。水面にはヒメハジロ ♂♀、ハシビロガモ NORTHERN SHOVELER、オオアオサギ GREAT BLUEHERON、コスズガモ LESSER SCAUP、草地にはクサチヒメドリがいて、カモメが多く観察された。しかし、ここは NWR とは思えないので、アバディーン市内の旅行者情報センターに立ち寄り、そこで、NWR は、私達が最初に行った空港の駐車場の奥にあることを知ったので、元に戻り、空港の駐車場(NWR と共用?)に車をとめると、先ほどは気がつかなかった NWR の看板がその一角にあった。

道具を取り出し、トレールを歩き始めると、大勢の人たちが戻ってくるのに出会い、彼らは潮がひいて鳥がいなくなったとのこと。右手の完全に潮のひいた湾を見ながら、低木の藪に挟まれたトレールを進む。干潟には鳥影が見えない。終点近くは周遊するようになっていて、グルットー回りして、もと来たルートに戻る。帰路に出会った人は、2 時間もすれば潮が上がってきて、鳥が見えるようになるといい、先端のほうへ歩み去った。私達は、空港の脇に

あるカフェで昼食をとった後、名札をつけた制服を着て、袋に入れた望遠鏡を背負い、先ほどまで小学生のグループに鳥を指導していた人と話をした。彼は、45キロほど南西のトクランド岬に行ってみるとよいとアドバイスしてくれ、地図でその場所を示してくれた。彼は、地元の人で、NWRでのボランティア活動をしているのだろう。

入口で手に入れた、グレイハーバー水鳥フェスティバルの印刷物に、4月30日と5月1-2日に、祭の開催の情報が記されていた。この情報によると、この時期のベストな探鳥時間は、午後2時から7時半と書いてある。満潮の2時間前から2時間後が最もよいらしい。見られる鳥は、フタオビチドリ KILLDEER、アライソシギ SURFBIRD、ダイゼン BLACK-BELLIED PLOVER、コオバシギ RED KNOT、ミズカキチドリ SEMIPALMATED PLOVER、ミコビシギ SANDERLING、オオキアシシギ GREATER YELLOWLEGS、ヒメハマシギ WESTERN SANDPIPER、メリケンキアシシギ WANDERING TATTLER、アメリカヒバリシギ LEAST SANDPIPER、チュウシャクシギ WHIMBREL、ハマシギ、アメリカオオソリハシシギ MARBLED GODWIT、アメリカオオハシシギ SHORT-BILLED DOWITCHER、アカキョウジョシギ RUDDY TURNSTONE、オオハシシギ LONG-BILLED DOWITCHER。何と私達は2-3時間の差で、これ等の鳥たちを見逃してしまった。実は、私達も、探鳥には潮の満ち干に関係があると思い、ここへ来るまで、人々にこの干満の時間帯を聞いたが、ほとんどの人が、無関心で、それを知らなかった。

アバディーンでの宿はグレース湾の一番奥でグレース川が湾にそそぐ場所にあった。この日の走行距離 92 キロ。比較的大きなホテルだったが、夕食を供しないので、近くのメキシコ料理に歩いて出かける。外は寒い。

4月29日(木) チェックアウトをし、荷物を車につんでから、グレース川沿いのトレールを歩き、川の鳥を中心に観察。アメリカイソシギ SPOTTED SANDPIPER、ヒメウなどの写真を撮り出発。橋を渡って105号線を西へ向かう。途中でグレース湾南側のポトルビーチ SP に寄る。入口に大きな湿原があり、その奥が林で区切られた海岸線。上空を百羽ほどのカナダガンが大きな声をあげながら北へ渡っていく。クサチヒメドリとオウゴンヒワ AMERICAN GOLDFINCH の写真を撮る。湾の干潟は全面的に干上がっていて、昨日と同様に水鳥の姿はみえない。

105号線を太平洋に沿って南下し、昨日教えられたウイラパ湾に細く南に突き出したトクランド岬に着く。ここは小さな漁港で、桟橋の上から何人かが釣りをしていると思ったら、籠をぶら下げてカニを捕っていた。食べるのではなく、釣りの餌に使うとのこと。近くの水面に、ハシグロアビが浮かんでいて、背中の中の羽の様子が写真によく写っている。次に近づいてきたのがウミアイサ♀、アラナミキンクロ、クサチヒメドリ、完全に夏羽になっているアメリカオオハシシギの群。アラナミキンクロ♂が段々近づいてきて、よい写真が撮れた。アメリカオグロシギ HUDSONIAN GODWIT も近くの水際に現れる。突然、水鳥たちが騒がしく飛び上がった。上空には、ハクトウワシが旋回していた。ここでは、ミサゴも飛んだ。

105号線をウイラパ湾の東側海岸線に沿って走る。湾は引き潮時で、あまり鳥影は見られない。アメリカの太平洋岸で二番目に大きな干潟だ。レイモンドで101号線に入り、同じ湾の海岸線を西へ向かい、やがて南下する。ウイラパ NWR は三箇所に分散していて、その一つ、**ロングアイランド ユニット**(湾に浮かぶ大きな島で立入はできるが、自分のポートを持っていないと行くことができない)の表示を通過し、やがてこの日の宿泊地小さな漁港の町イルワコに入る。この町は、大きなコロンビア河河口の北側の岬に位置する。町中の小さな丘のうえにある宿イン アット ハーバーは、昔教会だった建物を改造したもので、部屋数は10に満たない。荷物を部屋におろして、車で近くの**ケーブル ディスアポイントメント SP**へ行くが、特に目新しい鳥には出会わず。イルワコの隣シービュー町の旅行者案内所で資料をもらう。この日の運転距離は200キロ。ウイラパ NWR の第二のポイントは、ウイラパ湾と太

平洋に挟まれて 20 キロほど細長く突き出した魚介類が豊富にとれるロングビーチ半島の北先端部分にあるリードベターポイントユニット。第三は、湾の一番奥(南)でイルワコの町に近いリーッコラリス・ポーターズポイントユニット。NWR 全体がコクガンの重要な越冬地となり、渡りの季節には 30 万羽ほどのユキチドリ、ナキハクチョウ、カナダガン、アメリカオオハシシギ、カッシュクペリカン、ヒメハマシギ、ハマシギが羽を休め、クロキョウジョシギ、オオホシハジロなどが越冬する。

夜食は、出発前に宿から紹介され予約してあったイルワコ漁港そばで、宿から歩いていけるペリカーノというレストランで酒を飲み、食事をする。とても旨かったが、代金は宿代(高くない)をはるかに上回るものとなった。

4月30日(金) 半島の先端のリードベターに向かう。駐車場に数台の車を見て鳥仲間がいるなと思った。駐車場脇でホシワキアカトウヒチョウ SPOTTED TOWHEE を間近で写真。湾側の東海岸線に出た。大きな湾全体が干上がっていて、鳥影がカモメを除きほとんどない。鳥仲間と思った人たちは、湾の中で貝かカニを掘っている人々だった。トレールを海岸線に沿い北に向かい、林の中を抜け西側の太平洋岸に出るコースを進む。林を三分の二ほど過ぎた場所で、トレールは水没して通行できず、脇の藪の中をかき分けながら進んだが、結局通行できないとわかり、中央部を駐車場に出るトレールに戻った。帰国してから読んだ資料には、10月から5月までの雨季には、トレールが水没する個所があるとの注意事項があった。また、ここの北端の砂浜はユキチドリの営巣を保護するために、営巣季節に一般の立入が禁止されている。

イルワコに戻る途中で、太平洋岸のパシフィックパイン SP に立ち寄ったが、特に収穫なし。半島の付け根のリーッコラリス・ポーターズポイントを目指したが、正しい道路を走っているのに、標識がなく、あきらめる。この NWR の情報は、<http://www.fws.gov/willapa> で求められる。町のスーパーで、昼食を求め、給油をし、101号線をコロンビア河に沿って東に13キロほど進み、河をオレゴン州側に渡る大きな橋を通る。対岸の比較的大きな港町のアストリアで30号線に入り上流方向の東へ進む。左手の河の中に数多くの島が点在し、ルイスアンドクラーク NWR となっているが、ここは一般の立入ができないようだ。河沿いではあるが、比較的上り下りの多い30号線を70キロほど走り、再び河を大きな橋で渡り、ワシントン州側のロングビュー市にでる。橋の上から、木材をパルプに加工する工場がいくつか見えた。ここから高速道路 I-5 (インターステート5号線) を南下し、I-205号線に入り、州道14号線(東方向)に入る。コロンビア河の向こう岸にオレゴン州ポートランド市がある、ワシントン州側のケマス市に住む、ML のスタンフォード大学で日本学と一緒に勉強した同級生グレチンの家に、この日から三泊世話になる。クリス家のご主人のマイククリスは博士号(物理学)を持ち、筑波市で短期の研究生活を送ったこともある。夫人のグレチンは、今でも日本語と日本の研究を続けている。この日の運転距離は82キロ。

クリス家は、市の郊外の丘の上にあり、日本流に考えるととても大きな家だが、近々、近くにさらに大きな家を求め移転する予定で、その新しい家を見に行った。この家族は、ユダヤ教徒で、金曜日の夕食には、食事前に、テレビなどでみるイスラエル人がかぶる「お椀」のような帽子を男性がかぶり、主人が祈りをささげる簡単な儀式があり、食事となる。この日は、夫妻の子息が訪れていて、私を含めて男三人がこの帽子を食事中着用した。(これ以外、私たちの滞在中、この家族の宗教的な儀式はなかった)。(次号へ続く)

## 会 員 便 り ( ab - yacho より )

### 【ゆうゆう公園】

利根川ゆうゆう公園にコヨシキリがやってきました。昨年よりやや遅かったような気がします。今年は葦がカットされ、葦が低いので撮りやすいようです。(2010.06.13 大久保陸夫)

### 【サンコウチョウ】

茨城県北部にサンコウチョウを求めて行ってきました。今までとは違い、自由に飛び回るサンコウチョウを初めて撮りました。高い木の天辺付近を飛び回り、鬱蒼と生い茂る木々の間を長い尻尾をものとはせず、以外と敏捷に飛び回り、加えて薄暗い中、逆光なので撮り難い被写体でした。ほぼ真上の被写体なので、撮影中、天地がひっくりかえるような感覚で、何度かコケそうになりました。今回は一眼レフを使いましたが、いつかデジスコで挑戦したいものです。ところで、この被写体は尻尾に段差のあるところに着目すると、季節によっては、この長い2本の羽根が抜けて、後に残る尻尾の境界では?と想像するのですが、みなさんはどう思いますか。(2010.06.14 大久保陸夫)

### 【北新田】

- ・ カッコウは利根川河川敷、ホトトギスは南側の斜面林で鳴いていました。(2010.06.20 中野久夫)
- ・ 北新田では早生の稲の穂が出始めました。
- ・ オオヨシキリの“ギョギョシ”の鳴き声が非常に少なくなりました。あと2、3日で聞かれなくなると思います。
- ・ 5月12日以降見られなくなっていたクサシギが帰ってきました。4号排水路にいました。(2010.07.15 中野久夫)

### 【利根川ゆうゆう公園】

昨日(7/18)利根川ゆうゆう公園自然観察ゾーンに行ってきました。自然観察ゾーンの端に古利根からの排水路がありますが久しぶりに行ってみたらカワセミ君は健在でした。コヨシキリは鳴き声だけで姿は見れませんでした。オオヨシキリは数は少なくなりましたがまだ頑張っていました。(2010.07.19 諏訪哲夫)

## 7月幹事会報告

日 時 7月11日(日)午後1時30分  
場 所 水の館3F 研修室

1. JBFの参加内容の検討と担当について  
事務局染谷が資料に沿って計画を説明し次の通りになった。
  - ・ ブース1のパネル展示:「手賀沼で身近に見られる鳥たちのいろいろ」をA1版パネルで展示。
  - ・ ブース2の「庭に鳥を呼ぶ」(植物標本の展示)や定点バードウォッチングと船上バードウォッチングは従来のやり方をベースに工夫する。ブース1.2の準備は、パネルは野口、鈴木幹事、原稿作成は啓発チームが行う。

2. ほーほーどり 216号掲載記事について

- ・ 松本幹事が資料に沿って提案、大綱、了承された。

3. 創立 40 周年記念事業について

- ・ 創立 40 周年記念事業準備委員会の検討状況を資料に沿って報告。記念誌（データ編） 記念誌（一般向け小冊子）の作成。記念パーティ、記念講演会、記念探鳥会、記念発表会の実施を検討する方向で了承。予算は 70 万円程度。

4. その他の報告・検討事項

- ・ 第1四半期会計報告 会計担当の北原幹事が資料に沿って報告、了承された。
- ・ JBF 実行委員会の検討状況：会場を巡る循環バス、手賀沼公園と親水広場結ぶ船上バスは 15 分間隔。アビスタのイベント、鳥フォトコンテスト等。
- ・ 手賀沼学会：7月3日開催、当会はパネル展示実施、野口(隆)幹事が説明。
- ・ 美手連関係の報告：6月7日に環境大臣賞受賞(当会の活動も含む)。役員改選時期で当会も役員留任。 10月9日流域フォーラム全体会議と講演会開催。
- ・ 千葉県緑化推進委員会との協働事業について。 検討の結果 辞退と決定

お知らせ ( 1 )

< 第 20 回 鳥学講座開催 >

日 時 10月23日(土)午後14時45分~16時15分(開場14時30分)

場 所 アビスタ(我孫子市生涯学習センター)ホール(定員:120名)

講 師 塚本洋三(つかもと・ようぞう)(財)山階鳥類研究所 客員研究員

演 題 「デジカメ時代にふりかえる下村兼史の野鳥生態写真~その資料整理と保存~」

参加費 無料(事前の申込みは要りません)

主催・問い合わせ 我孫子市鳥の博物館(04-7185-2212)

(財)山階鳥類研究所(広報:04-7182-1101)

お知らせ ( 2 )

< 長寿大学学習指導 >

日時 10月29日(金)午前10時~12時

学習内容「緑の保全と野鳥観察」(仮称)

学習場所 岡発戸・都部谷津ミュージアム

学生数 42名(7班編成)

集合場所 こもれびまたは湖北台近隣センター(未定)

ほーほーどり No. 216 (2010年9~10月号)

発行 2010年9月1日

発行人 間野吉幸

編集人 猪爪敏夫、小玉文夫、佐々木隆、野口紀子、松本勝英、宮下三禮

事務局 染谷迪夫 〒270 1154 我孫子市白山 1-9-4 Tel: 04 7182 3972

URL <http://abikoyacho.org/>

郵便振替 00140-2-647587 我孫子野鳥を守る会

会費 年会費 2,000円(大学生・高校生 1,000円、中学生以下 500円、家族会員 無料)